

平成27年度第2回公立高等学校配置計画
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁新しい高校づくり推進室

平成27年度第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 開催日程一覧

会場	開催日	開催時間	開催場所
空知南	平成27年7月23日(木)	14時00分～16時10分	岩見沢市文化センター
空知北	平成27年7月23日(木)	18時30分～20時05分	たきかわ文化センター
石狩	平成27年7月30日(木)	9時50分～12時00分	道庁赤れんが庁舎
後志	平成27年7月23日(木)	13時30分～15時40分	後志合同庁舎
胆振西	平成27年7月28日(火)	14時30分～16時40分	室蘭市文化センター
胆振東	平成27年7月28日(火)	9時30分～11時40分	苫小牧市民会館
日高	平成27年7月29日(水)	13時30分～15時40分	日高合同庁舎
渡島	平成27年7月28日(火)	14時05分～16時15分	渡島合同庁舎
檜山	平成27年7月25日(土)	13時30分～15時40分	檜山合同庁舎
上川南	平成27年7月22日(水)	10時00分～12時10分	上川合同庁舎
上川北	平成27年7月22日(水)	15時00分～17時10分	名寄市駅前交流プラザ「よろーな」
留萌	平成27年7月27日(月)	14時00分～16時10分	羽幌町立中央公民館
宗谷	平成27年7月29日(水)	10時30分～12時40分	稚内総合文化センター
林-ツ中	平成27年7月25日(土)	14時30分～16時40分	北見市端野町公民館
林-ツ東	平成27年7月25日(土)	9時30分～11時40分	オホーツク合同庁舎
林-ツ西	平成27年7月24日(金)	14時00分～16時10分	紋別市民会館
十勝	平成27年7月21日(火)	13時30分～15時40分	ホテルグランテラス帯広
釧路	平成27年7月23日(木)	13時30分～15時40分	釧路センチュリーキャッスルホテル
根室	平成27年7月25日(土)	13時30分～15時40分	別海町交流館ぷらと

平成27年度第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 参加者数一覧

会場 (学区)	参加者							計 D(A+B+C)	傍聴者 E	合計 F(C+E)	アンケート 提出者
	行政 関係者 A	学校関係者		計 B	PTA関係者		計 C				
		中学校	高等学校		中学校	高等学校					
空知南	13	9	13	22	2	2	4	39	9	48	14
空知北	23	12	9	21	12	4	16	60	3	63	24
石狩	9	10	41	51	11	7	18	78	4	82	35
後志	22	15	18	33	5	14	19	74	7	81	16
胆振西	6	6	12	18	5	2	7	31	5	36	9
胆振東	7	4	13	17	0	4	4	28	2	30	11
日高	8	7	7	14	5	1	6	28	6	34	9
渡島	15	10	24	34	8	1	9	58	5	63	21
檜山	7	7	4	11	4	2	6	24	7	31	16
上川南	16	15	24	39	4	5	9	64	7	71	20
上川北	10	6	8	14	1	5	6	30	7	37	10
留萌	14	7	6	13	5	5	10	37	9	46	20
宗谷	9	9	7	16	3	3	6	31	3	34	19
オホーツク中	13	6	12	18	4	9	13	44	5	49	24
オホーツク東	5	6	7	13	3	4	7	25	3	28	20
オホーツク西	10	7	6	13	2	5	7	30	1	31	19
十勝	24	19	22	41	8	10	18	83	28	111	25
釧路	10	7	9	16	4	7	11	37	13	50	16
根室	10	5	7	12	3	3	6	28	2	30	23
合計	231	167	249	416	89	93	182	829	126	955	351

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① 全国的な教育の水準、共通性、良質な授業の確保が維持・充実できるようお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の多様な、興味・関心、進路希望等に対応し、保護者や地域のニーズに応える魅力ある高校づくりを推進するため、総合学科や全日制普通科単位制等の新しいタイプの高校を設置するとともに、特色ある教育活動への支援など、様々な施策を実施しています。 ○ これまでの施策や各高校の取組の成果と課題、国の動向等を踏まえて、社会の変化に対応した高校教育を推進します。 ○ 生徒が基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力等の「確かな学力」や、思いやりの心などの「豊かな心」、生涯を通じて健康に過ごすことができる「健やかな体」を育み、進路希望を実現できるよう、指導方法の改善等に取り組みます。 ○ 地域の人や自然などの教育資源を活用し、地域の産業特性などを踏まえた、魅力ある高校づくりに努めるとともに、高校が地域の文化・スポーツ活動といった生涯学習の場としての役割を果たすことができるよう、地域の実情を十分考慮しながら取り組みます。 ○ 今後とも、地域の発展に貢献できる人材の育成に向け、教育を取り巻く環境の変化や地域の実情なども考慮しながら、教育内容の充実に努めます。
② 地域のニーズに応える学校づくりをしてほしい。	
③ 特色ある高校づくりは、確実に高校教育の質の向上に成果を出していると考えるので、今後も生徒の実態や希望に応えられる学校づくりを進めてほしい。	
④ 地域に根ざした教育により、子どもたちが地元を愛し、地元を誇りを持ち、育つことが大切だと思う。	
⑤ 各地方の生徒の成長が期待されるよう、高校教育の充実をお願いしたい。	

■ 新しい高校づくりなどの推進	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
【推進・充実】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路希望に対応できる総合学科 ・生徒が主体的に学習に取り組むことができる全日制普通科単位制 ・まとまりのある分野の科目群を選択できる普通科フィールド制 ・6年間の計画的・継続的な教育活動を行う中高一貫教育 の新しいタイプの高校の設置に努めています。 ○ 新しいタイプの学校では、それぞれのタイプの趣旨を生かし、具体的な教育目標を立て、その実現に向けて創意工夫した特色のある教育活動を展開しています。 ○ 今後とも、生徒の多様な学習ニーズに対応できるよう、学校選択幅の拡大を図るため、新しいタイプの高校の設置に努めるとともに、地域の教育資源を生かした特色ある教育活動が一層充実するよう、取り組みます。
① 一人一人の進路実現ができる特色ある高校づくりを進めてほしい。	
② 特色のある高校づくりの今後の見通しが北海道の地域性や特徴に合ったものに発展していけるようになってほしい。	
③ 少子化が進む中、地域に根づく高校のあり方というのとはとても重要であり、専門学科の充実化や中高一貫教育の推進は必要である。	
④ 新しい高校づくりが生徒の意欲につながる。新しいタイプの高校ができることを期待している。	

<p>【成果と課題】</p> <p>⑤ 新しいタイプの高校の成果や課題について、より一層情報の発信に努めて欲しい。</p>	<p>○ 新しいタイプの高校における主な成果と課題については次のとおりです。</p>																
<p>⑥ 新しいタイプの高校（総合学科、フィールド制）の成果があまり感じられない。</p>	<p>〈総合学科〉</p> <table border="1" data-bbox="868 376 1428 710"> <thead> <tr> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 多様な科目を選択することにより、学びに対する興味・関心が高まり、幅広い知識を身に付けることができた。 必修科目である「産業社会と人間」の授業や様々な体験を通して、勤労観や職業観が育成され、自らの進路を前向きに考えるようになった。 <p>など</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや個別面談の実施方法や内容の改善を図り、進路相談活動の充実に努める必要がある。 <p>など</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>〈全日制普通科単位制〉</p> <table border="1" data-bbox="868 768 1428 1102"> <thead> <tr> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習ニーズに応じた幅広い選択科目を開設するとともに、少人数指導や習熟度別授業などのきめ細かな学習指導の実施により、学習意欲や授業の理解度が高まった。 異なる年次の生徒がともに学ぶことにより、切磋琢磨する姿勢や社会性を育むことができた。 <p>など</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ホームルーム単位で授業を受ける機会が少なくなるため、帰属意識を高める観点から学校行事等の取組の充実に努める必要がある。 <p>など</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>〈中高一貫教育〉</p> <table border="1" data-bbox="868 1160 1428 1520"> <thead> <tr> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 6年間の計画的、継続的な教育活動により、物事にじっくりと取り組む姿勢が身に付くとともに、個性や長所を伸ばすことができた。 連携型では、地域の教育資源を活用した中高の教員による授業が行われ、基礎・基本の定着が図られるとともに、地域への理解が一層深まった。 <p>など</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 異なる年齢の生徒との活動に消極的な生徒に対する、事前のケアや事後の面談の充実に努める必要がある。 <p>など</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>〈普通科フィールド制〉</p> <table border="1" data-bbox="868 1579 1428 1883"> <thead> <tr> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 継続的なきめ細かなガイダンスの実施により、将来の進路を前向きに考え、学習に対する目的意識が向上した。 フィールド指定科目を学習することにより、基礎・基本はもとより、高度な知識を身に付けることができた。 <p>など</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 各学年段階に求められる進路に関する学習が充実するよう、生徒の活動を適切に評価し、キャリア教育計画の改善に努める必要がある。 <p>など</p> </td> </tr> </tbody> </table>	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な科目を選択することにより、学びに対する興味・関心が高まり、幅広い知識を身に付けることができた。 必修科目である「産業社会と人間」の授業や様々な体験を通して、勤労観や職業観が育成され、自らの進路を前向きに考えるようになった。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや個別面談の実施方法や内容の改善を図り、進路相談活動の充実に努める必要がある。 <p>など</p>	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習ニーズに応じた幅広い選択科目を開設するとともに、少人数指導や習熟度別授業などのきめ細かな学習指導の実施により、学習意欲や授業の理解度が高まった。 異なる年次の生徒がともに学ぶことにより、切磋琢磨する姿勢や社会性を育むことができた。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム単位で授業を受ける機会が少なくなるため、帰属意識を高める観点から学校行事等の取組の充実に努める必要がある。 <p>など</p>	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> 6年間の計画的、継続的な教育活動により、物事にじっくりと取り組む姿勢が身に付くとともに、個性や長所を伸ばすことができた。 連携型では、地域の教育資源を活用した中高の教員による授業が行われ、基礎・基本の定着が図られるとともに、地域への理解が一層深まった。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異なる年齢の生徒との活動に消極的な生徒に対する、事前のケアや事後の面談の充実に努める必要がある。 <p>など</p>	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なきめ細かなガイダンスの実施により、将来の進路を前向きに考え、学習に対する目的意識が向上した。 フィールド指定科目を学習することにより、基礎・基本はもとより、高度な知識を身に付けることができた。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年段階に求められる進路に関する学習が充実するよう、生徒の活動を適切に評価し、キャリア教育計画の改善に努める必要がある。 <p>など</p>
成果	課題																
<ul style="list-style-type: none"> 多様な科目を選択することにより、学びに対する興味・関心が高まり、幅広い知識を身に付けることができた。 必修科目である「産業社会と人間」の授業や様々な体験を通して、勤労観や職業観が育成され、自らの進路を前向きに考えるようになった。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや個別面談の実施方法や内容の改善を図り、進路相談活動の充実に努める必要がある。 <p>など</p>																
成果	課題																
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習ニーズに応じた幅広い選択科目を開設するとともに、少人数指導や習熟度別授業などのきめ細かな学習指導の実施により、学習意欲や授業の理解度が高まった。 異なる年次の生徒がともに学ぶことにより、切磋琢磨する姿勢や社会性を育むことができた。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム単位で授業を受ける機会が少なくなるため、帰属意識を高める観点から学校行事等の取組の充実に努める必要がある。 <p>など</p>																
成果	課題																
<ul style="list-style-type: none"> 6年間の計画的、継続的な教育活動により、物事にじっくりと取り組む姿勢が身に付くとともに、個性や長所を伸ばすことができた。 連携型では、地域の教育資源を活用した中高の教員による授業が行われ、基礎・基本の定着が図られるとともに、地域への理解が一層深まった。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異なる年齢の生徒との活動に消極的な生徒に対する、事前のケアや事後の面談の充実に努める必要がある。 <p>など</p>																
成果	課題																
<ul style="list-style-type: none"> 継続的なきめ細かなガイダンスの実施により、将来の進路を前向きに考え、学習に対する目的意識が向上した。 フィールド指定科目を学習することにより、基礎・基本はもとより、高度な知識を身に付けることができた。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年段階に求められる進路に関する学習が充実するよう、生徒の活動を適切に評価し、キャリア教育計画の改善に努める必要がある。 <p>など</p>																
<p>【広報・周知】</p> <p>⑦ 中学訪問時の際に、「新しいタイプの高校」の理解がうまくされていないという実態があった。何らかの手立てが必要かと思われる。</p>	<p>○ 毎年度、新しいタイプの高校を紹介したパンフレットを作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配布するとともに、道教委のホームページに掲載しています。</p>																

<p>⑧ 特色ある高校についてはもっと広報伝達が必要と思われる。すごく良い事を行っているにもかかわらず、保護者等には伝わっていないのが残念。</p>	<p>○ また、昨年度は道教委の広報誌「ほっとネット」を活用し、より多くの道民の方々に、公立高校の課程・学科や新しいタイプの高校の特色等について、周知しました。</p>
<p>⑨ 新しいタイプの高校というが、目新しさばかり先行していないか。新しいタイプの高校が多すぎ特色の違いが分かりにくい。</p>	<p>○ 今年9月には、新しいタイプの学校の教育内容を紹介したDVDを、市町村教育委員会や中学校に配布するとともに、道教委のホームページに掲載する予定です。</p>
<p>⑩ 新しいタイプの高校づくりが行われているが、PTA・子ども達が理解しきれていないので、もっと詳しい情報の提供が必要。</p>	<p>○ 第1回の地域別検討協議会では、私立高校を含めた各高校の特色ある教育活動や取組を紹介するリーフレットを配布し、PRに努めています。 これらのリーフレットは、道教委のホームページに掲載しています。</p> <p>○ 各高校でも、ホームページや学校案内などのパンフレット、中学生を対象とした体験入学の実施などにより、特色を広く周知しています。</p> <p>○ 今後とも、中学生や保護者の方々が、新しいタイプの高校の特色等を一層理解できるよう、積極的な情報提供に努めます。</p>
<p>【設置・導入】</p> <p>⑪ 生徒の学習ニーズに対応した魅力ある新しいタイプの高校を配置してほしい。</p> <p>⑫ 新しいタイプの高校の導入地域にあっては、保護者・地域住民への十分な説明が必要。</p>	<p>○ 新しいタイプの高校については、地域からの要望等を伺いながら、中学校卒業生数、生徒の進路動向、学校・学科の配置状況等を考慮しながら、設置を進めています。</p> <p>○ 可能な限り地元主催の説明会等にも出席し、新しいタイプの高校の特色などを説明するとともに、地域の方々のご意見を伺っていきます。</p>

<p>■ 地域キャンパス校</p>	
<p>【推進・充実】</p> <p>① 地域キャンパス校・センター校双方の支援を継続していただきたい。</p> <p>② 北海道の広域性、地理的状況を考えると、センター校・地域キャンパス校の学校は増加すると考えているので、今まで以上にキャンパス校の条件整備に力を入れてほしい。</p> <p>③ 地域キャンパス校になった場合の教育課程・条件整備等、その具体が見えづらい。</p>	<p>○ 地域キャンパス校への支援を充実させるためには、センター校と地域キャンパス校の協力体制が大切であり、具体的な連携内容や方法については、両校で構成する連携委員会で検討の上、実施しています。</p> <p>○ 地域キャンパス校・センター校の取組等をまとめた連携事例集を各高校へ配布するとともに、道教委のホームページにも掲載しています。</p> <p>○ 引き続き、成果と課題を把握するとともに、全道の地域キャンパス校・センター校による連携研究協議会での意見交換等を通し、連携内容の工夫・改善を図るなどして、地域キャンパス校における教育環境の一層の充実に努めます。</p> <p>○ なお、地域キャンパス校・センター校の成果と課題は次のとおりです。</p>

〈出張授業〉

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 出張授業により、習熟度別指導や少人数指導、チーム・ティーチング等の授業が可能となり、生徒一人一人の能力に応じた指導ができるようになった。 選択科目を開設することにより、学習選択幅が拡大され、教育課程が充実した。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の時間や遠隔システムを活用して、授業内容に対する生徒の疑問や発展的な学習に対応する必要がある。 <p>など</p>

〈遠隔授業〉

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業を実際に行うことで、対面授業とほぼ変わらない成果が得られることが分かった。 遠隔授業を実施することにより、進度を遅らせることなく、年間の学習指導計画通りに進めることができた。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業を円滑に行うためには、意欲的に取り組み、遠隔システムの操作に慣れることが必要である。 <p>など</p>

〈生徒に係る連携〉

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 部活動の大会に合同で参加したり、生徒会のリーダー研修を合同で実施したりすることで、生徒数の少なさをカバーし、充実した活動を行うことができた。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 合同で部活動を実施する場合は、事前に生徒同士のコミュニケーションの場を設定し、意思の疎通を十分に図るなど、生徒の心情に配慮しながら実施する必要がある。 <p>など</p>

〈教職員に係る連携〉

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 遠隔システムを効果的に活用することで、校内研修や授業研究の機会が増え、指導方法の充実が図られるとともに、授業改善への意識が高まった。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画的・継続的に合同の校内研修を実施し、より一層指導力の向上を図るとともに、地域キャンパス校は1教科1人の教員であることから、研修等を通して相談にのる必要がある。 <p>など</p>

【教職員の配置】

④ 地域キャンパス校にも、十分な教員配置をお願いしたい。

⑤ センター校からの出張授業により、キャンパス校の教育環境は良くなるが、センター校の教育環境は悪くならないのか。

○ センター校からは複数の科目において、地域キャンパス校への出張授業を行い、科目選択幅を広げるとともに、習熟度別指導を行うなど、支援に努めています。

○ こうした取組を支援するため、地域キャンパス校及びセンター校にそれぞれ教員を1名加配しています。

○ 両校で構成する連携委員会において、生徒の学習ニーズ等に応えることができるよう、連携内容等を協議しています。

○ 今後とも、センター校からの支援が円滑に行われるよう、連携内容の工夫・改善に取り組み、地域キャンパス校の教育環境の充実に努めます。

■ 小規模校への支援	
【推進・充実】	
① 小規模校の存続・支援について、地域の実態に応じた対応を道教委として考えているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校では、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた能力が育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた特色ある教育課程を編成し、地域に根ざした教育活動を展開しています。 ○ こうした取組を支援するため、学力向上やキャリア教育などの研究指定や1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配措置、近隣の道立学校が相互に教員を派遣する「道立高校間連携」などを行っています。 ○ 今後とも、小規模校においても、生徒の多様な学習ニーズに対応できるよう教育環境の維持充実を図り、魅力ある学校づくりに努めます。
② 高校間連携については、地域の小規模校が連携して教育を進める方法であり、今後も推進してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年度から小規模な高校の教育活動の維持充実を図るため、近隣の学校が連携し、相互に教員を派遣する「道立高校間連携」を行っており、今年度は5組10校で実施しています。 より多くの学校で取組が進むよう支援していきます。
③ 小規模な総合学科校に対する教育内容の充実を図るための各種施策を講じてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模な総合学科校においても、多様なニーズに応じた柔軟な科目選択等ができるよう、学校における教育課程の工夫改善を一層進めることが必要であり、学級数に応じた系列や開設科目の見直しや、教員配置の工夫、民間非常勤講師の活用などにより、総合学科としての特色が生かせるよう取り組みます。 ○ 小規模となった総合学科等における教育活動の改善・充実を図るため、平成25年度から「小規模総合学科等の新たな魅力づくり推進事業」を実施しており、今年度は12校が確かな学力の育成等に向けた指導方法の改善・充実を図る取組や、地域の自然や産業等を活用した教育活動を創造する取組などを行っています。
【教職員の配置】	
④ 小規模高校においては専門の教科を担当できる教員の配置が必須である。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域キャンパス校を含む1学年1学級の高校には、道単独での教職員の加配措置を行っており、教育環境の充実に努めています。
⑤ 小規模校の実情に配慮した人員配置をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年度から、近隣の道立学校が相互に教員を派遣して教育課程の充実を図る「道立高校間連携」にも取り組んでおり、例えば、数学や英語の授業で教員を相互に派遣し、少人数指導やティーム・ティーチングなどのきめ細かな指導の実施により、生徒の学習意欲が高まったなどの成果があがっています。 ○ 小規模校の教育環境を維持充実し、特色ある教育活動が展開されるよう、引き続き支援していきます。

■ 遠隔授業（研究開発学校）	
<p>【推進・充実】</p> <p>① 今後の環境変化や人口減少等を考えると、遠隔授業は将来必要となり、研究の推進は重要である。</p> <p>② 小規模高校においては、教育内容の機会均等の観点で、専門の教科を担当できる教員の配置が必須であるが、それがなかなかかなわない状況の中、キャンパス校での遠隔授業について大きな期待を持っている。</p>	<p>○ 離島や郡部の小規模校の教育水準の維持向上を図るため、同時双方向型の遠隔システムを活用した単位認定の授業の在り方などについて、平成25年度から4年間の予定で研究開発を進めています。</p> <p>○ これまでの研究から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで開設できなかった科目が開設でき、生徒の学習選択幅が広がること ・生徒の関心・意欲・態度等を十分に把握することにより、生徒一人一人の学習状況を適切に評価することが可能であること <p>などが明らかになっています。</p> <p>○ こうした状況を踏まえ、今年度は、新たなツールとして導入する、ハンディカメラやタブレットの効果的な活用方法、遠隔授業におけるグループ学習や課題解決学習の実施方法など、発展的な内容について研究を進めています。</p>

■ 高校配置計画の策定	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【基本的な考え方】</p> <p>① 高等学校として一定の教育成果を上げるためにはある程度の人数が必要と考えるので、その意味では再編は仕方ないと思います。ただ、その中で、小規模校として高い成果が期待できる点なども考慮の必要はあると思う。</p> <p>② 各校の特色を高めて、それぞれの高校を選択できることに意義があるのだから、生徒数だけで再編を進めることには疑問が残る。</p> <p>③ 中学校卒業生の減少で、再編等の検討は必要だと思いが、間口減少により選択教科の減少など教育の質の低下にならないよう検討をお願いしたい。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、地域の実情などを考慮しながら策定しています。</p> <p>○ 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を展開する観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、地域ごとの特性や実情を十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【策定方法・示し方】</p> <p>④ 学級数及び生徒数、市町村間の流出入の状況等を総合的に判断していただき、各自治体の高校の特色を一層生かした配置計画の策定を望む。</p> <p>⑤ 適正な競争がある配置計画にしてもらいたい。専門的な学校は規模よりも特性を生かす計画にしてもらいたい。</p> <p>⑥ 3年間を見通しての計画はわかりやすく良いと思う。</p> <p>⑦ 原々案の段階で関係自治体の意見をくみ取り、一方通行ではなく、よりよい解決策を見出していくべき。</p>	<p>○ 今後も中学校卒業生数が減少する中であって、特色ある様々な教育活動の充実や多様な学習ニーズに対応した幅広い教育課程の編成・実施を行う必要があります。</p> <p>○ 配置計画の策定にあたっては、地域別検討協議会において、3年間の具体的な計画と、その後の4年間の将来的な配置の見直しをお示しし、地域の方々の御意見を伺っているほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただいています。</p> <p>○ 今後とも、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、新しいタイプの高校づくりや再編整備など、適</p>

	切な高校配置になるよう努めます。
⑧ 高校配置のあり方について、道の総合教育会議の協議題としてほしい。	○ 本年度から教育委員会制度が改正され、首長と教育委員会が協議・調整する場として「総合教育会議」が設けられました。会議の議題については、知事部局におい検討することとなりますが、道教委としても十分協議してまいりたいと考えています。
⑨ 少子化問題が基幹にあることはゆるぎない事実である。道教委のみではなく、道として少子化に対してどのように考えているのか。その中の一つとして、高校配置計画も考えるべき。道の子育て支援など、他部や他課との連携が必要だと考える。	○ 道教委としては、これまでも知事部局と連携しながら、地域を支える産業の担い手育成などに取り組んでいますが、今後とも、本道の発展に主体的に貢献できる人材を育成するため、地域の自然環境や人材などの教育資源を活用しながら、特色ある高校づくりに取り組むとともに、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待なども十分考慮し、配置計画を策定します。
【再編等（地域の実情等）】	
⑩ 郡部の小規模校の果たす役割は大きいと地域では認識している。生徒数が少なくても地域の子ども達を地域で育てるとい考えが必要ではないか。	○ 本道は広域で多様な地域から形成され、都市部と郡部では地域事情も大きく異なっており、学校・学科の配置状況や通学事情、地域とのかかわりなどの面での相違など、地域の実情を十分考慮する必要があります。
⑪ 生徒数だけではなく、地域の実情を考慮した配置計画を作成していただきたい。	○ 再編に当たっては、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域キャンパス校とし、教育環境の充実に努めています。
⑫ 高校は地域の活性化等に大変重要な役割を担っており、地域で支援策を講じ存続に向けて取り組んでいることを考慮してほしい。	○ 高校配置計画の策定にあたっては、今後の中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを総合的に勘案し、地域の実情を十分考慮しながら、検討を進めます。
⑬ 卒業生数の減少をもって、機械的な学校削減を行わず、地域や学校現場の実態を踏まえた適切な配置をお願いしたい。	
⑭ 地域の要望もしっかりと取り入れた高校配置計画の策定をお願いしたい。	
⑮ 人口減少が激しい郡部の高校は、都市部と同一の考え方を改めるべき。	
⑯ 都市部中心の考え方はやめていただきたい。地方切り捨ての考え方では人口増につながらない。	
⑰ 中卒者が減っているからといって、ただ単純に学級を減らすということではなく、地域の実情を考えるべき。今の北海道教育委員会の考え方は、国が推し進めている地方創生の施策に逆行するものである。	
【再編等（小規模校の役割）】	
⑱ 中学生にとっては、小規模校での教育を受けたいという要望があることもご理解いただきたい。小規模校だからこそできる教育として、細かく丁寧な実績も評価していただきたい。	○ 小規模校は、きめ細かな指導や、地域と連携した取組など特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。
⑲ 小規模校は人間関係が狭く、子どもにとって必ずしも良い	

<p>とは思わない。</p>	
<p>⑳ 再編等を進めるのはやむを得ないと思うが、都市部から離れた地域の高校がなくなると大きな負担を地域住民に与えることが予想されることから、高校教育を地域に残す考え方を検討していただきたい。</p>	<p>○ 道教委としては、中卒者数の減少が引き続き中で、一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開することが必要と考えていますが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域キャンパス校として教育環境の維持・充実に努めています。</p>
<p>㉑ 2学級程度であっても、職業高校は十分特色をだせる。定数の改善等しっかりとした予算付けをして、教育環境を整えることが先ではないのか。</p>	<p>○ なお、小規模校では、生徒の多様な学習ニーズに対応できるよう、相互に教員を派遣し教育課程の充実を図る「道立高校間連携」を行っています。 また、小規模となった新しいタイプの高校において、「小規模総合学科等の新たな魅力づくり推進事業」を実施し、地域の自然や人材を活用した取組を積極的に進めるなど、教育環境の充実に努めています。</p> <p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に貢献できる人材の育成に向け、地域の方々の御意見などを十分伺いながら、適切な高校配置になるよう努めます。</p>
<p>【市町村立・私学・高専との関係】</p> <p>㉒ 市立高や私学も同じテーブルで配置計画を策定していただきたい。</p>	<p>○ 高校配置計画は、道立高校だけではなく市町村立高校を含めた公立高校全体の配置計画であることから、その検討に当たっては、市町村立高校の設置者である市町村とも協議を行っています。</p> <p>○ また、北海道公立高等学校協議会や、昨年度から新たに開催している私学所在地ごとの地域別公立高等学校協議会などを通じて、私学関係者とも協議を行っています。</p> <p>○ 今後とも、道立高校だけではなく、市町村立高校の状況や私立高校の配置状況にも配慮しながら、関係市町村などと協議していきます。</p>
<p>㉓ 中学校卒業者の減少に伴う公私間の定員調整を引き続き適切に実施してほしい。</p>	<p>○ 私学所在学区にあっては、私立高校の配置状況に配慮し、公立高校において、中学校卒業者数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行うこととしています。</p>
<p>㉔ 指針では私立高校の配置状況を考慮しながら、公立高校で中学校卒業者の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行うと規定しているが、公立高校の定員調整は十分ではない。</p>	<p>○ 今後の配置計画の策定に当たっても、引き続き、北海道公立高等学校協議会や、昨年度から新たに開催している私学所在学区ごとの地域別公立高等学校協議会などの場を通じて十分協議を行いながら、適切な高校配置計画になるよう努めます。</p>
<p>㉕ 高等専門学校との協議も十分にしていける必要があると思う。</p>	<p>○ なお、高等専門学校の定員については、中学校卒業生数の減少を踏まえた定員調整に配慮していただくよう、国等に対し要望しています。</p>
<p>㉖ 公立高校の2次募集によって、私立高校への入学手続きを完了した者が辞退しており、2次募集の出願を制限してほしい。</p>	<p>○ 公立高校の入学選抜については、実施要項に基づき行っており、生徒の進学への影響を十分考慮するとともに、保護者の意向なども踏まえながら、引き続き、検討していきます。</p>

<p>【学級定員の引き下げ】</p> <p>㉗ 1学級定員の40人基準を30～35人とすべきである。</p> <p>㉘ 少人数学級により高校が維持されるよう取り組んでほしい。</p> <p>㉙ 学級の定員数は現行より少なくすることを強く求める。</p>	<p>○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えています。</p> <p>○ これまでも、国の加配定数を活用し、少人数によるきめ細かな指導に努めてきており、今後も、少人数学級や少人数指導の推進など、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き要望していきます。</p>
<p>【望ましい学校規模】</p> <p>㉚ 教育水準の確保向上は大切です。その観点から高校配置計画を推進していただきたい。</p> <p>㉛ 「適正規模」というのもがあると思うので、地域の意見を尊重しつつ推進してほしい。</p> <p>㉜ 小規模校だからできる、動けるという取組も多々あると思う。各校の取組内容を吟味し、存続等を考える必要があると考える。</p> <p>㉝ 4～8学級のルールを徹底させてほしいという意見もあるが、そのような機械的な考え方は子ども達のためにならないと思う。</p>	<p>○ 高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、地域の実情等を考慮しながら、新しいタイプの高校づくりや再編整備など、適切な高校配置になるよう努めます。</p> <p>○ 学校規模については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られる ・生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる ・より多くの教職員の指導により、多様な見方や考え方が学べる ・生徒会活動や部活動が活性化し充実する <p>などの考え方から、1学年4～8学級を望ましい規模と考えています。</p> <p>今後も中学校卒業業者数が大幅に減少することが見込まれることから、地域や学校の実情等を考慮しながら高校の再編整備を進める必要があります。</p>
<p>【新たな高校教育に関する指針】</p> <p>㉞ 中卒者の減少が進む中、国においては次々に教育改革を打ち出している。道においても、改めて新しい指針を策定し、高校教育の充実を推進する必要があると考える。</p> <p>㉟ 現在の配置計画の考え方で良いと思う。</p> <p>㊱ 「新たな高校教育に関する指針」について、急激な社会構造の変化に呼応した見直し、検討が必要と考える。</p> <p>㊲ 地域キャンパス校の再編の目安である第1学年の生徒数を20人未満から15人に変更されたい。</p> <p>㊳ 指針が示されてから9年以上経過し、見直しというものを考えていい時期だと思う。地域から高校がなくなることでの負担などを検証して考えていただきたい。</p>	<p>○ これまでも、高校教育を取り巻く状況の変化などを踏まえながら、教育環境の充実に努めるとともに、指針の見直しの必要性について、検討してきましたが、国の制度改正の動向なども見極めた上で、高校が地域で果たしている役割、地域の期待や取組、教育的観点からの望ましい学校規模のあり方など、様々な角度から検討していきます。</p> <p>○ 地域キャンパス校や離島の高校であっても、一定の学級規模が必要なことから、再編整備を行う場合の人数要件を設けていますが、この要件を下回った場合であっても、ただちに再編整備するのではなく、その後の生徒数の増が見込めない状況となるかどうかを十分見極めながら検討します。</p>

■ 高校配置計画の策定	□ 学区ごとの状況
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【空知南】</p> <p>① 教育的観点から適切な規模での高校配置の検討していることは理解できるが、小規模校でもその学校の地域での役割や使命があり、子ども達が生き生きと学んでいる学校であることも理解していただきたい。 そうしたことを考慮しながら、また地域の声を聞きながら検討をしていただきたい。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や、地域と連携した取組など特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題があります。</p> <p>○ 道教委としては一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開する観点に立って、地域や学校の実情等を考慮しながら高校の再編整備を進め、教育水準を維持向上することが必要であると考えています。</p> <p>○ 今後とも、生徒の教育環境の充実を図る観点に立ちまして、地域の方々の御意見などを伺いながら、適切な高校配置になるよう努めます。</p>
<p>【空知北】</p> <p>② 砂川高校について、平成27年度に間口減となったが今後の推移を見る必要があるため、平成28年度に学級増を行うとの説明であるが、今後同じような状況があった場合、どの高校においても同じ扱いとなるのか。</p>	<p>○ 入学選抜の結果、学級減となった場合は原則として、翌年度の学級数は増やしません。市町村内の中卒者の増加が見込まれる等、学級数を増やさないと生徒が進学先を失ってしまうという場合などには学級増を行うこととしています。</p> <p>砂川高校は、平成27年度の入学選抜の結果、1学級の減となりましたが、平成28年度は、砂川市内の中卒者の増加が見込まれることに加え、今年度は、例年に比べ、砂川市内から砂川高校へ進学した中卒者の割合が低くなっていることから、単年度の状況のみで判断するのではなく、進路動向を慎重に見極める必要があることから、1学級の増を行うこととしています。</p>
<p>【石狩】</p> <p>③ 平成30年度に市内の中卒者が大幅減となる北区ではなく、石狩南高校が定員調整の対象となる理由について、北区との関係を含めて説明願いたい。また、入学者選抜の倍率がそれほど低くなかったと思うが、そういう状況は踏まえていないのか。</p>	<p>○ 石狩学区の中卒者数は、平成30年度には学区全体で221人の減少が見込まれており、公私比率を勘案すると3～4学級相当の減の調整が必要な状況です。</p> <p>定員調整に当たっては、市や区ごとの中卒者の状況のほか、生徒の進路動向や、学校規模、これまでの定員調整の経緯や私立高校の配置状況などを勘案し、検討しています。</p> <p>石狩市内の高校には、北区からの進学者が多く、平成30年度は石狩市と北区で併せて92人の中卒者の減少が見込まれていることなどから、他の地域の中卒者の状況や進路動向等も考慮のうえ、石狩南高校で1学級の減を行うこととしています。</p> <p>○ また、定員調整などを検討する際には、入学者選抜における出願状況も判断要素のひとつとして考慮していますが、それだけではなく、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、これまでの定員調整の経緯などを総合的に勘案しています。</p>
<p>【後志】</p> <p>④ 平成30年度の後志学区の新設校設置に当たっては、小樽・北後志の特色を生かした学校づくりを行っていただきたい。</p>	<p>○ 小樽市では「小樽市内の公立高校間口に関する懇談会」を設置し、市内の職業学科の配置について検討したほか、市教委が行った保護者や市民の方々に</p>

	<p>対するアンケート調査や、経済団体や学校関係者からの意見聴取などを行ってきています。本年1月に小樽市から、こうした検討の結果を踏まえた上で、職業高校の再編に関わって「小樽市の観光やものづくりなどの産業構造等を踏まえ、観光ビジネス、ガラス工芸や機械・金属製品などのものづくり、小樽の特色を生かせる食などを幅広く学ぶことのできる、小樽にふさわしい魅力ある高校の設置」などについて要望をいただいております。市の要望を踏まえた上で、平成30年度に小樽商業高校と小樽工業高校を再編することとしています。</p> <p>○ 今後、小樽市の要望や地域の実情を踏まえるとともに、生徒の進路選択の幅が広がるよう、関係団体等の御意見も十分に伺いながら、新設校の学科構成などについて検討します。</p>
<p>【胆振西】</p> <p>⑤ 望ましい学校規模に基づいて説明されているが、1学年3学級規模でも特色を出し頑張っている伊達市内の伊達高校と伊達緑丘高校の2校を残してもいいのではないかと。</p>	<p>○ 伊達市については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊達高校は、平成26年度以降、3学級規模となっている ・伊達市内に生徒が流入している周辺3町（豊浦・洞爺湖・壮瞥）及び室蘭市を加えると、見通し期間中に、191人の中卒者の減が見込まれているなどの状況があります。 <p>こうしたことから、一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開する観点から、平成31年～34年度までの見通しにおいて、「伊達市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要」とお示ししています。</p> <p>今後、地域の御意見を伺いながら検討を進めます。</p>
<p>【胆振東】</p> <p>⑥ これからの人口減少社会の中で、地域づくりも含めて高校の役割が強くなってきているので、広い観点から高校づくりを考える時期にあるのではないかと。</p>	<p>○ 道教委としては、本道の発展に主体的に貢献できる人材を育成するため、地域の自然環境や人材などの教育資源を活用しながら、特色ある学校づくりに取り組んでいます。</p> <p>○ 今後も、人口が減少する中であっても、高校はそれぞれの地域の実情に応じて適切にその役割を發揮していくことが大切であり、地元市町村や地域の方々の協議などを通じ、人口減少が地域に及ぼす影響や課題について認識を共有しつつ、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待なども十分考慮しながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【日高】</p> <p>⑦ 日高管内には平取養護学校がありますが、通学が困難な地域もあることから、今後、高等学校における特別支援教育の具体的な方向性についてお伺いしたい。</p>	<p>○ 現在、全ての道立高校で校内委員会の設置や特別支援コーディネーターの指名などの校内体制が整備され、特別支援学校から教員を派遣する特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業など、特別支援学校との連携を図りながら一人一人の教育的ニーズに応じた適切な学習指導や必要な支援の充実に努めています。</p> <p>○ 今年度、「北海道の後期中等教育段階における特別支援教育に関する検討委員会」を設置し、発達障害のある生徒に対する後期中等教育の在り方や、後期中等教育における特別支援教育の充実に向けた取組の方向性等について検討を行っています。</p>

<p>【渡島】</p> <p>⑧ 中卒者数の動向を踏まえて学級減を進めており、妥当な計画である。函館西高校と函館稜北高校については、速やかに再編し、適正規模を確保してほしい。</p>	<p>○ 函館市については、既に函館稜北高校が3学級規模であり、加えて函館西高校も平成29年度に3学級規模となることから、一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開する観点から、平成31年～34年度までの見通しにおいて、「早急に再編の検討が必要」とお示ししています。 今後、地域の御意見を伺いながら検討を進めます。</p>
<p>【檜山】</p> <p>⑨ 地域性を十分に配慮した計画策定を今後もお願いしたい。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定のあたっては、広域な本道における都市部と郡部の違い、学校・学科の配置状況などを考慮しながら、適切な高校配置になるよう努めます。</p>
<p>【上川南】</p> <p>⑩ 公私比率を考えると、4～5間口の減が示されていたにも関わらず、1～2相当の調整というの大きな問題と考える。平成31年度も見越して、2間口減としたのであれば、平成29年度も同様に考えるべきであった。 平成30年度の2学級減について、再考していただきたい。</p>	<p>○ 上川南学区では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に学区全体で250人、旭川市で278人の大幅な中卒者数の減少が見込まれるが、他の市町村では増減が大きくはないこと ・一方で、平成31年度は、学区全体で134人の増加が見込まれることから、年度ごとに学級数の増減を繰り返すことによる、生徒の学校選択や学校運営への影響なども考慮する必要があること <p>などから、旭川市内で2学級の減としています。</p>
<p>【上川北】</p> <p>⑪ 国の地域創生という状況の中で、北海道の地域それぞれに合った学校づくりを考えていただきたい。地域に学校を残していただけるような形で検討願いたい。</p>	<p>○ 本道は広域で多様な地域から形成され、それぞれの地域事情も大きく異なっており、都市部と郡部では、学校・学科の配置状況や、通学事情、地域とのかかわりなどの面で相違があるほか、人口減少が及ぼす影響の度合いも異なることから、高校の配置を検討するにあたっては、こうした地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p>
<p>【留萌】</p> <p>⑫ 小規模校、職業高校の配置計画は全道共通にせず、地方の特色を考えて進めていってほしいと強く思う。</p>	<p>○ 職業学科を有する専門高校では、本道産業の発展に寄与する有為な人材を育成するため、時代の変化に対応し、専門的な教育を行ってきており、地域産業の担い手育成にも重要な役割を果たしていると考えています。 しかしながら、今後も中学校卒業生数の減少が見込まれる中、専門高校も含めて高校の定員調整や再編を検討する必要があると考えており、今回の計画では、留萌市からの要望も踏まえ、現行の学科構成を維持しつつ、留萌高校と留萌千望高校を再編することとしています。</p> <p>○ また、小規模校であっても、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域キャンパス校とし、教育環境の充実に努めています。</p>
<p>【宗谷】</p> <p>⑬ 平成30年以降の新しいタイプの高校の導入について、早目の協議等が行われることを期待する。</p>	<p>○ 宗谷学区は新しいタイプの高校が導入されていないため、生徒の学校選択幅を拡大する観点から、多様な学習ニーズに対応した総合学科や普通科単位制などの新しいタイプの高校の設置の検討を進めます。</p>

<p>【オホーツク中】</p> <p>⑭ 北見市内の高校に郡部から入学してくる生徒が増え続ければ当然のごとく郡部には生徒がいなくなる。北見市内の定員を郡部の学校との関係から検討すべきである。市内の定員が少なくなれば郡部にも生徒は入学する。</p>	<p>○ オホーツク中学区については、平成31年以降、平成34年度までに206人の中卒者の減が見込まれることや、欠員の状況、進路動向などから、北見市内及び周辺町での再編整備や定員調整の検討が必要と考えています。</p> <p>○ 北見市内と周辺町においては、生徒が地域間で大きく流入していることから、今後の高校配置を検討するに当たっては、生徒の進路動向も十分に考慮していく必要があると考えています。</p>
<p>【オホーツク東】</p> <p>⑮ 清里高校の今年度の入学者が12名であり、来年度20人以上入学できるか厳しい状況である。再編にあっては、来年度以降の中学校卒業生数などを勘案してもらいたい。</p>	<p>○ 地域キャンパス校であっても、一定の学級規模が必要なことから、再編整備を行う場合の人数要件を設けていますが、この要件を下回った場合であっても、ただちに再編整備するのではなく、その後の生徒数の増が見込めない状況となるかどうかを十分見極めながら検討します。</p> <p>○ オホーツク東学区では、平成28年度に小清水高校を募集停止とすることとしていることから、今後の生徒の進路動向等を慎重に見極めていく必要があると考えています。</p>
<p>【オホーツク西】</p> <p>⑯ 5年、10年先の中卒者数の減少と間口減少の必要性が示されているのだから、早目の具体的な提示がなされることを希望する。</p>	<p>○ 配置計画は、生徒の学校選択や安定した学校経営に資する観点から、毎年度、3年分の具体的な計画と、その後4年間の将来的な見通しをお示ししています。</p> <p>○ 計画の検討に当たっては、地域別検討協議会や地域の検討の場などにおいて、今後の中卒者数の見込みのほか、地域の高校配置の現状や課題、将来的な定員調整の見込みや再編整備の必要性などについても説明し、御意見を伺っています。</p> <p>○ 今後とも、将来的な高校配置のあり方について、一層の理解や議論が深められるよう、地域ごとの課題の示し方などについても、工夫改善を行っていきたいと考えています。</p>
<p>【十勝】</p> <p>⑰ 少子化児童生徒数の減少に伴い、各高等学校の間口減は止むを得ないと思うが、実際に間口減を決定する（した）場合、各市町村の住民保護者に今回の検討協議会等に提示した資料を広く周知し、何故間口を減らさねばならないかを数字に基づいて説明し理解を求めらるべきであると思う。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、地域の方々に教育的観点からの望ましい学校規模の考え方などを丁寧に説明するとともに、御意見を伺うことが何よりも大切であると考えています。</p> <p>○ そのため、地域別検討協議会において、3年間の具体的な計画と、その後の4年間の将来的な配置の見通しをお示しし、地域の方々の御意見を伺っているほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただいています。</p> <p>○ 今後とも、道内のそれぞれの地域の実情等を十分考慮するとともに、地域別検討協議会はもとより、様々な機会を通じて、保護者や地域の方々の御意見を十分に伺いながら、適切な高校配置に努めてまいりたいと考えています。</p>

<p>【釧路】</p> <p>⑱ 釧路江南高校は教育実践がよく、中学校段階で江南高校へ行けば良いところへ就職できるという父兄の共通認識があるので、1学級減は動揺がある。今後、中卒者数に増減があることを踏まえ、見直しについて検討していただきたい。</p>	<p>○ 釧路学区では、平成30年度に中卒者数が62人減少することや、生徒の進路動向、各学校の在籍者の状況等に加え、学校・学科の配置状況やこれまでの定員調整の経緯等を総合的に勘案し、今回、釧路江南高校で1学級減を行うこととしています。</p>
<p>【根室】</p> <p>⑲ 地域における高校の存在意義は大変大きい。生徒数の減少傾向から今後一層間口確保が難しくなると考えられる。当管内の特性（広い）から一市町に一校は高校があるべき。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、地域の御意見を伺いながら検討していますが、地域の方々からは、高校の配置は、教育や文化だけではなく、経済や産業など地域に影響を及ぼすといった御意見をいただいています。</p> <p>○ 本道は広域で多様な地域から形成されており、それぞれの地域事情も異なるので、配置計画の検討に当たっては、都市部と郡部の違いや、地域ごとの実情なども考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ 今後とも、地元市町村や保護者などの御意見を伺いながら、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待も十分考慮し、適切な高校配置に努めてまいります。</p>

<p>■ 職業学科の充実</p>	
<p>【職業学科の配置の在り方】</p> <p>① 職業教育の充実を図ることは、地域の産業の発展や地域の振興に重要である。</p>	<p>○ 職業高校では、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能はもとより、より実践的な技術を習得させるとともに、地域や地元企業と連携し、商品開発やものづくりに取り組むなどして、本道の産業を支える人材を育成しています。</p>
<p>② 職業高校の配置計画は全道共通にせず、地方の特色を考えて進めていってほしい。</p>	<p>○ こうした職業高校の取組や、地域の方々の要望、地域産業の特性、各学校の実情などを考慮し、これまで職業学科の再編整備や学科転換を行ってきました。</p>
<p>③ 職業科や専門的内容等、普通科以外の学習をしたいと思う生徒のニーズに応じてほしい。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに対応し、地域特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の発展に貢献できる人材を育成することができるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、再編整備や学科構成等について検討していきます。</p> <p>○ 現在、第25期北海道産業教育審議会において、社会の変化に対応した産業教育を推進する学科の構成等について審議いただいております。こうした審議内容も踏まえ、適切な職業学科の配置に努めます。</p>

<p>■ 高校における特別支援教育の取組</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【高校における特別支援教育の取組】</p> <p>① 障がいのある生徒が地元の高校に進学し、豊かで楽しい高校生活を送ることができるよう、更に工夫・改善していくべきだと思う。</p>	<p>○ 障がいのある生徒の道立高校への受入れについては、高校の目標を達成するための一定の学力を備え、日常の学校生活を送る上で大きな支障がないことなどを踏まえて、校長が判断しています。</p>

<p>② 専門性向上のための講習会や研修会の開催をはじめ、高校における特別支援教育体制の充実を図ってほしい。</p>	<p>入学者選抜における特別な配慮や入学後の施設・設備の整備などについて、生徒、保護者、中学校と事前に十分相談をして、対応しています。</p>
<p>③ 特別支援教育への対応はこれからだと思うので、是非充実を図ってほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、全ての道立高校で校内委員会の設置や特別支援コーディネーターの指名などの校内体制が整備され、特別支援学校から教員を派遣する特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業など、特別支援学校との連携を図りながら一人一人の教育的ニーズに応じた適切な学習指導や必要な支援の充実に努めています。 ○ 特別な支援を必要とする生徒が在籍している高校では、チーム・ティーチングや個別指導などによるきめ細かな学習指導に努めるとともに、学期ごとに補習を行うなど、単位認定に向け、様々な方策を講じています。 ○ また、当該生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう、教育相談やホームルーム活動の充実を図るなどして、生活面の支援を行っています。 ○ 国に対しては、道立高校における特別の教育課程編成の導入、定数措置の改善、通級指導教室の設置と制度的な整備の検討、特別支援教育支援員の配置に要する財源措置の充実について、要望しています。 ○ 今年度、「北海道の後期中等教育段階における特別支援教育に関する検討委員会」を設置し、発達障害のある生徒に対する後期中等教育の在り方や、後期中等教育における特別支援教育の充実に向けた取組の方向性等について検討を行っています。

<p>■ 通学費等への支援</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【遠距離通学費等補助制度の見直し】</p> <p>① 通学費補助について、定期代から1万円を控除した額を補助することとしているが、補助率が低いと思うので見直しをしてほしい。</p> <p>② 通学費、下宿費補助は5年間の補助期間を廃止してほしい。</p> <p>③ 遠距離通学費の補助については、所得の要件をなくし、全ての生徒に期限なく与えることを望む。</p>	<p>○ 遠距離通学費等補助制度は、平成20年度以降の道立高校の募集停止に伴い、地元から高校がなくなり遠距離通学等となる場合において、通学費や下宿費等に係る経済的負担を軽減し、生徒の修学機会の確保に努めることを目的に実施しています。</p> <p>○ 補助額については、平成21年度までは通学費等の月額実費負担額が13,000円を超える額を補助していましたが、道立高校の募集停止に伴い、新たに経済的負担が生ずる保護者の不安に配慮して、その負担軽減のため、平成22年度からは10,000円を超える額を補助しています。</p> <p>○ この制度は、募集停止の時点における中学生の進路選択に配慮するとともに、保護者の経済的負担を軽減するための激変緩和措置として創設しました。そのため、従前から高校のない市町村に居住する生徒との均衡などを考慮し、補助期間については募集停止後5年間としています。</p> <p>○ なお、北海道高等学校奨学会が実施する奨学金制度では、道立高校の募集停止により通学区域内の他の高校に修学する者を対象として、期限を設けずに奨学金の上限額の引き上げを行っています。</p>

	こうした制度についても一層の周知を図り、修学機会の確保に努めます。
--	-----------------------------------

■ その他	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【地域への説明等】</p> <p>① 少子化で高校再編は仕方が無いと考えるが、地域の意見を聞きながら進めるべきである。</p> <p>② 地域の意見を集めた上で、地域の実態に応じた高校配置計画を推進してほしい。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。</p> <p>○ 第1回目の協議会では入学者選抜における入学状況、生徒の進路動向、今後の中学校卒業者の見込みなどを説明し、第2回目では計画案の考え方などについて説明し、地域の方々から御意見などを伺っています。</p> <p>○ また、地元主催の説明会などにも出向くなどして、道教委の考え方などについて説明を行っています。今後とも、地域の方々の御意見などを伺いながら、検討を進めます。</p>
<p>【地域別検討協議会】</p> <p>③ P T A分科会は今後も継続し、より深く理解できるようにしてほしい。</p> <p>④ P T A分科会は毎年同じ様な感じで、なおかつ全体会と同じなので今後も必要か検討してほしい。</p> <p>⑤ 日程的にも土曜日の午後ということで参加しやすく良かった。</p> <p>⑥ P T Aの参加者に配慮し、土曜開催は良かったと思うが、毎回土曜だと厳しい面もあると思う。</p> <p>⑦ 夕刻開催も良いと思うが、意見を出すためには日中の時間帯の方が後のことを考えなくて良いと思う。</p> <p>⑧ 第1回目より参加しやすい場所の開催となり良かった。</p> <p>⑨ 小学校P T Aや小学校関係者も参加できるように広く広報や参加依頼をすべきである。</p> <p>⑩ 広く意見が出されるように小グループ協議なども取り入れてはどうか。</p>	<p>○ P T A関係者の中には、新年度から新たに役職に就かれた方も多ことから、全体会の前に高校配置計画策定の基本的な考え方や、特色ある高校づくりなどについて説明を行い、理解を深めていただくため、昨年度から全体会に先がけてP T A分科会を設けました。</p> <p>○ 今年度は、いただいた御意見やアンケートを踏まえ、第1回目の協議会では1会場で休日の開催とし、第2回目の協議会では4会場で休日の開催としたほか、1会場で夜間の開催としました。</p> <p>○ より多くの方に出席いただけるよう、今後も開催日時や場所の見直しなど、協議会の開催方法の改善に努めます。</p>